

4-4 社会との交流

一般市民の方々に科学の面白さ・意義を伝えるとともに、科学コミュニティの健全な発展を促すような相互交流を醸成するための取り組みは、ますます重要性を増している。分子科学研究所では、このようなアウトリーチ活動の一環として、他機関との連携・共同により国内の広い範囲をカバーする事業、および、岡崎の地域性を重視した事業という2つのタイプを実施している。前者としては、自然科学研究機構シンポジウムならびに大学共同利用機関シンポジウムがあり、後者は一般公開、分子科学フォーラム、岡崎市民大学講座等である。また、全国の中学・高等学校の団体から、個人の申し込みまで、見学者を受け入れている。

4-4-1 一般公開

研究活動や内容について、広く一般の方々に理解を深めていただくため研究所内を公開し、説明を行っている。現在では岡崎市にある3つの研究所が輪番に公開を実施しているので、3年に1回の公開となっている。公開日には実験室の公開と講演会が行われ、多くの見学者が分子研を訪れる。

回数	実施月日	入場者数
第11回	2006.10.21	2058人
第12回	2009.10.17	1346人
第13回	2012.10.20	1126人
第14回	2015.10.17	2600人
第15回	2018.10.20	3878人
第16回	2021.10.23	YouTube 再生回数：2618回 ニコニコ動画来場者数：26,964人 (10/23 一般公開終了時点)

4-4-2 分子科学フォーラム

当フォーラムは「分子科学の内容を他の分野の方々や一般市民にも知らせ、また、幅広い科学の話を分子研の研究者が聞き自身の研究の展開に資するように」との趣旨のもとに、1996年より実施されている。豊田理化学研究所と共催となっており、年度毎に年間計画を豊田理化学研究所の理事会に提出している。2008年度よりは、一般市民の方々に科学の面白さ・楽しさを伝える「市民一般公開講座」として新たに位置づけられ、2009年度には、一元的で効率的な活動の展開を目指して、広報室を中心とした実施体制の整備を進めた。この際、講演回数をこれまでの年6回から4回に変更し、密度の高い講座を開講することで、より魅力的な『分子科学フォーラム』の実現を図った。COVID-19感染拡大後はオンライン開催に切り替えたが、開催時間、広報活動をターゲットに合わせ変更した結果、全国の社会人、大学生、高校生に参加いただけるようになり、参加人数もリアル開催よりオンライン開催の方が多結果となった。

本年度の実施状況は以下の通り。(すべてオンライン開催)

回	開催日	テーマ	講演者	参加人数
132	2022. 6.10	量子コンピュータ ～開発者が明かすしくみと可能性～	武田 俊太郎 (東京大学准教授)	約 390 名 (累計 2,178 名)
133	2022. 9.30	物質科学とその美の源流をさぐる	田中 陵二 (公財)相模中央化学研究所)	約 310 名 (累計 826 名)
134	2022.12. 9	ミクロとマクロを結ぶ科学：小さくてあまり面白くないものがすごくたくさん集まると新しい面白い性質が勝手に生まれてくるという話	田崎 晴明 (学習院大学教授)	約 400 名 (累計 1,084 名)
135	2023. 2. 3	化学と幾何学——多面体の定理を活用したものづくり	藤田 誠 (分子科学研究所卓越教授／ 東京大学卓越教授)	約 410 名 (累計 1,419 名)

4-4-3 市民向けシンポジウム

(1) 自然科学研究機構シンポジウム

当シンポジウムは2006年より年2回のペースで実施され、下記のようにこれまでに計35回開催されている。

本シンポジウムに対する分子科学研究所の関与は次の通りである。第1回において、「21世紀はイメージング・サイエンスの時代」と銘打ったパネルディスカッション中で、岡本裕巳教授が「ナノの世界まで光で見えてしまう近接場光学」というタイトルで講演を行った。第2回目は、講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った(詳細は「分子研レポート2006」を参照)。第7回では、加藤晃一教授が自らの体験に基づいて「研究の醍醐味とは何か」を伝える講演を行った。第11回では、大峯巖所長(当時)が「水の揺らめきの世界：揺らぎと反応と生命」というタイトルで講演を行った。第14回は、再び講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った(詳細は「分子研レターズ68号」を参照)。第21回では、正岡重行准教授(当時)が「人工光合成への挑戦～植物に学ぶ分子デザイン～」というタイトルで講演を行った。2020年度の第30回は分子科学研究所が企画し、機構と名古屋市科学館の主催で「宇宙科学と生命科学の深～いつながら」と題したシンポジウムをオンラインで開催した。2021年度の第33回では、古賀信康准教授が「創って理解する 生命現象をつかさどる分子「タンパク質」」と題したオンライン講演を行った。

また、講演会の開催と併せて、展示コーナーを設けてビデオやパネルを用いた説明を行ってきている。常設展示室に設置されている可搬式のグラフィックパネルや模型を適宜利用するなど、展示内容のさらなる充実に努めている。合わせて、十分な説明要員を確保するために研究者の積極的な参加も促している。

今年度の実施状況は以下の通り。

回	開催日	テーマ	開催方法
34	2022. 9.25	性差について考えよう ～生命から社会まで～	一橋講堂 (ハイブリッド開催)
35	2023. 3.12	自然の中に潜む不確実性とは何か？ ～科学の目で見た持続可能性～	東京大学安田講堂 (ハイブリッド開催)

(2) 大学共同利用機関シンポジウム

本シンポジウムは、自然科学研究機構を含む4つの大学共同利用機関法人を構成する19の研究機関と宇宙科学研究所が、総合研究大学院大学と合同で開催したものである。各研究機関が「知の拠点群」として果たしている役割と、研究の推進を通じて切り拓かれた科学の広大なフロンティアの現状について、広く一般市民の方に紹介することを目指している。分子科学研究所はブース展示に参加し、先端的研究成果や分子科学に関連する基本事項の解説を行っている。例えば、常設展示室に設置されている920MHz NMRの半立体模型（第2回）、大型スクリーンに投影したスーパーコンピューターによるシミュレーションCG（第3回～第9回）、および各種の大型分子模型（第4回～第10回）、研究者トーク（第6回～第9回）等を通じて研究活動に関する詳しい説明を行った。研究者トーク（第6回～第9回）等を通じて研究活動に関する詳しい説明を行った。第12回も前年に引き続きオンライン開催となり、分子科学研究所は研究所紹介CM動画を配信し、またシンポジウム特設サイト内に分子研紹介ページを掲載した。第13回は分子研が主体となり企画・運営を行った。「科学の時代。見えてきた未来」と題し、大学共同利用機関の教員10名が講演、パネルディスカッションを行った。ハイブリッド開催だったが、名古屋市科学館に共同主催になっていただき、名古屋市科学館サイエンスホールを講演会場とした。午前・午後とも会場はほぼ満席、視聴者数も過去最高の約30,000（累計）となり、大変盛況なシンポジウムとなった。

第13回大学共同利用機関シンポジウム「科学の時代。見えてきた未来」プログラム

- 9:50 開会挨拶 田窪 行則（大学共同利用機関協議会 会長／国立国語研究所 所長）
来賓挨拶 森 晃憲（文部科学省研究振興局長）
- 10:00-12:45 午前の部 どこまで見える？ 宇宙科学の未来
- 10:05 巨大フレアの痕跡が明らかにした巨大噴火の年代
箱崎 真隆（国立歴史民俗博物館 准教授）
- 10:25 「ひさき」衛星観測から太陽系の惑星探査へ
山崎 敦（宇宙科学研究所 助教）
- 10:45 見えてきた、太陽系外の惑星の姿～宇宙における生命探査～
堀 安範（アストロバイオロジーセンター／国立天文台 特任助教）
- 11:05 天文学とデータ科学
池田 思朗（統計数理研究所 教授）
- 11:25 ビッグバン宇宙の謎
羽澄 昌史（素粒子原子核研究所 特任教授／量子場計測システム国際拠点（QUP）拠点長）
- 12:00 講演者5名によるパネルディスカッション
- 12:45-13:45 休憩（各機関紹介動画）
- 13:45-16:30 午後の部 生き物としてのあなたに、出会ったことはありますか？
- 13:50 プラズマで紐解く生命の謎
大坪 瑤子（核融合科学研究所／基礎生物学研究所／新分野創成センター 特任助教）
- 14:10 原子から生物まで——生命体をどのように理解すればいいのか——
千田 俊哉（物質構造科学研究所 教授）
- 14:30 デジタルツインに基づく人の経験の拡張
稲邑 哲也（国立情報学研究所 准教授）
- 14:50 日本人の読み書き能力1948年調査のナゾに迫る
横山 詔一（国立国語研究所 教授）
- 15:10 「長い目」で今の世界を見る —— 自然人類学から見た現在 ——
長谷川 真理子（総合研究大学院大学 学長）
- 15:45 講演者5名によるパネルディスカッション
- 16:30 閉会挨拶 渡辺 芳人（大学共同利用機関協議会 副会長／分子科学研究所 所長）
- 16:40 終了



実施状況は以下の通り。(中期計画第4期)

回	開催日	テーマ	会場／開催方法
13	2022.10.24	科学の時代。見えてきた未来	名古屋市科学館 (ハイブリッド開催)

4-4-4 見学者受け入れ

自然科学研究機構岡崎3機関の見学者の受け入れは、岡崎統合事務センター総務部総務課企画評価係が窓口になって行われており、その中で分子科学研究所の見学分については、研究力強化戦略室が中心となってその対応にあたっている。2010年5月に展示室を開設し、個人の見学受け入れを開始した。年間およそ300名が来訪している。2022年度は感染状況が落ち着いていることを条件として受け入れた。

見学申込み

(中期計画第4期)

年度	団体申込（施設見学＋展示室見学）			個人申込 （展示室）	見学者総数
	団体数	見学者数	実施機関名	見学者数	
2022	5	134	岡崎市立三島小学校，静岡県立浜松南高等学校，静岡 大学農学部，岡崎市現職研修委員会理科部，愛知県立 岡崎北高等学校	0	134

4-4-5 その他

(1) 岡崎商工会議所（岡崎ものづくり推進協議会）との連携

岡崎商工会議所は、産学官連携活動を通じて地元製造業の活性化と競争力向上を目的に「岡崎ものづくり推進協議会」を設立し、多くの事業を行っている。この協議会と自然科学研究機構岡崎3研究所との連携事業の一環で、協議会の会員である市内の中小企業との交流会を2007年度に開催し、この交流会によって出来あがった協力体制は現在も継続している。また岡崎商工会議所主催で隔年開催される「岡崎ものづくりフェア」へ大学・研究機関として展示ブースを設けて参加している。

(2) 岡崎市観光協会との連携

2018年より岡崎市観光協会と連携を開始し、各種市民向けのイベント等で相互に協力することで、市民への広報活動がより活発に行えるようになっている。

実施日	内容
2018.10.20	一般公開 キッチンカーのご提供
2019.6.13	岡さんぼ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力
2019.10.11	岡さんぼ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力